

(7) 近畿



近畿地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〓は上方に変更、〓は下方に変更)。

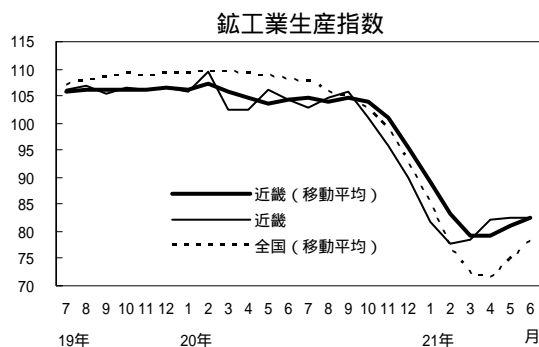
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	悪化	下げ止まっている	
鉱工業生産	下げ止まりの兆し	緩やかに持ち直している	
個人消費	緩やかに減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、ボイラ・原動機や自動車向けの軸受け等が好調だったものの、土木建設機械や半導体製造装置等で低調となったことから、減少している。化学は、有機薬品やプラスチックを中心に増加している。食料品・たばこは、飲料が好調だったことから、おおむね横ばいとなっている。電気機械は、セパレート型エアコンの生産はほぼ横ばいだったものの、リチウムイオン蓄電池や液晶テレビ用のバックライト等を中心に増加している。鉄鋼は、自動車や家電向けを中心に需要が底を打ち、生産水準が徐々に上昇していることから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	17.0	27.0	5.1	6.8	6.8
化学	14.5	6.5	8.0	7.9	3.1
食料品・たばこ	9.1	1.5	0.4	0.1	1.0
電気機械	8.5	19.0	12.3	7.7	3.6
鉄鋼	7.5	33.8	3.1	4.3	8.9
鉱工業	100.0	16.8	3.6	3.1	5.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

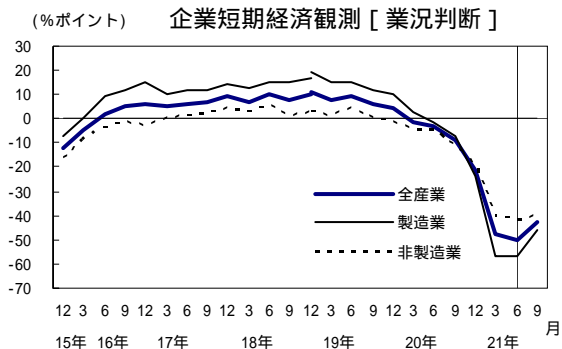
2. 4~6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

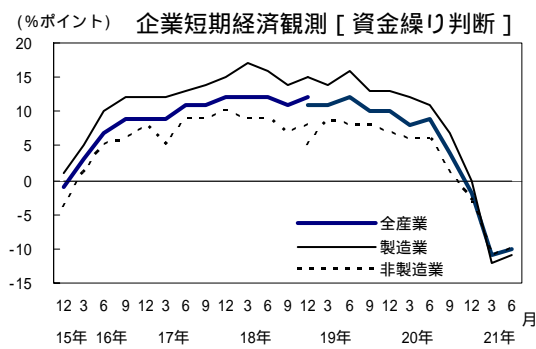
2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

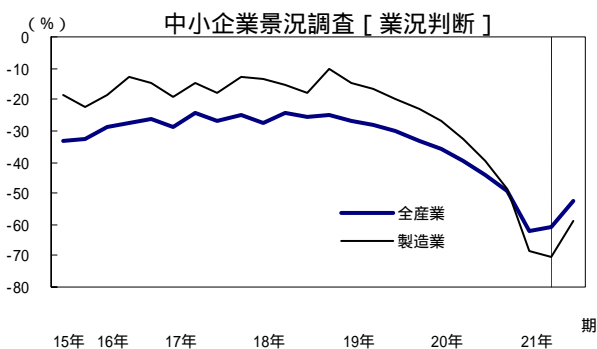
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

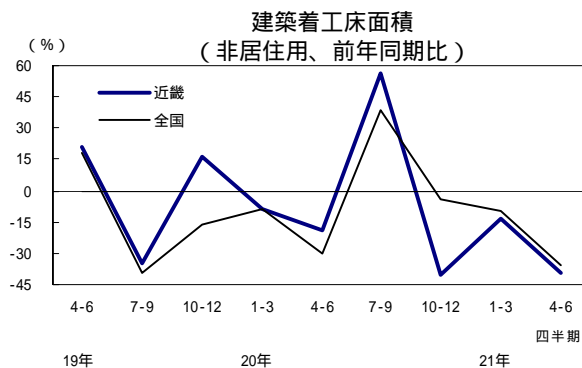
「最悪期を脱した感はあるが、春以降は一進一退の状況であり、良くはなっていない(化学工業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	1.6(3.8)	13.4(9.5)
製造業	6.5(4.3)	25.5(20.0)
非製造業	3.5(3.3)	1.7(0.2)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

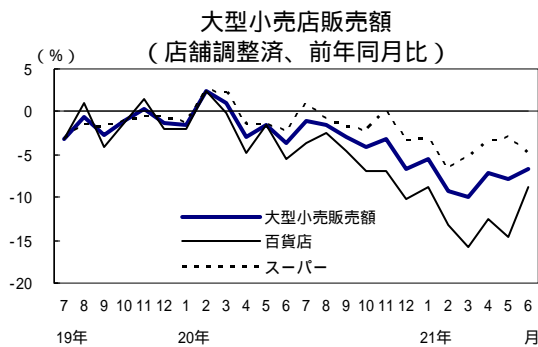
百貨店は、4月は、気温の高低差があるなかで、春物や初夏物の衣料品が不調だったほか、美術品や貴金属、家具などの高額商品が減少したことなどから、前年を下回った。5月は、夏物の婦人服の不振とともに、母の日ギフトが単価ダウンにより不調だったほか、新型インフルエンザ流行の影響により、中旬以降の売上が大きく減少したことなどから、前年を下回った。6月は、クリアランスセールの前倒しや一部店舗の閉店セールなどにより婦人服に動きがみられたものの、身の回り品や高額商品が振るわなかったことから前年を下回った。なお、大阪市内の複数の店舗では、改装・建て替え工事により売場面積が減少している。近畿百貨店協会によると、7月の近畿地区の売上高は、前年同月比で12.0%減となっている。スーパーは、新型インフルエンザの影響により、マスクや備蓄用の食料品が好調だったものの、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(5月)[家計動向関連(現状)]

「新型インフルエンザの影響で、マスクやうがい薬などが前年比で異常なほど動いており、備蓄用の食料品も好調に推移している。一方で、外出を控える人が増えたため、衣料品の売上が落ち込んでいる(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

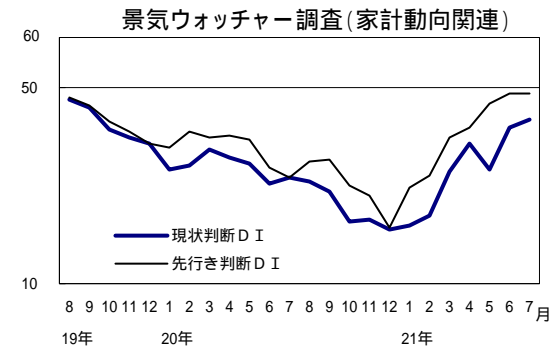
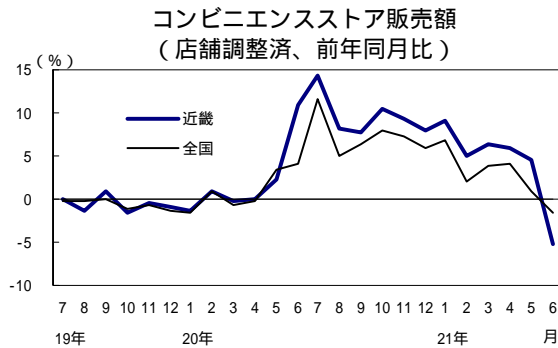
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	1.8	4.8	8.2	7.2
百貨店	3.6	8.2	12.6	12.0
スーパー	0.5	2.0	4.9	3.8
乗用車	1.2	13.8	23.2	16.5
景気ウォッチャー	30.4	22.3	26.1	37.8



(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

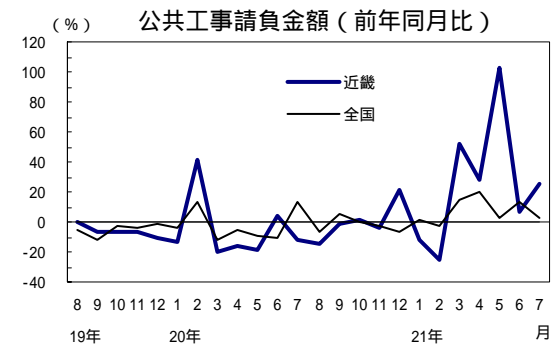
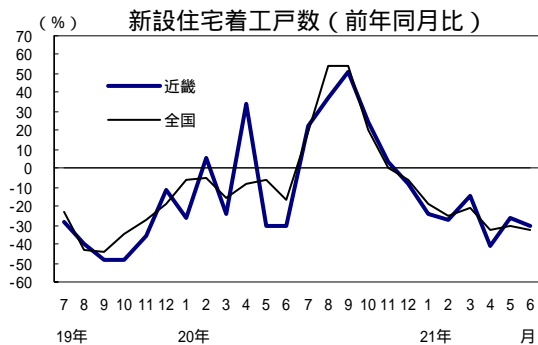
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

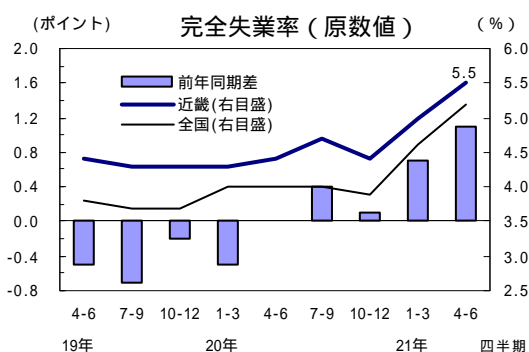
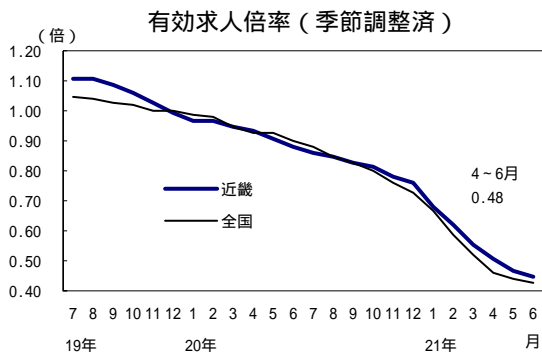


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (6月) [雇用関連 (現状)]

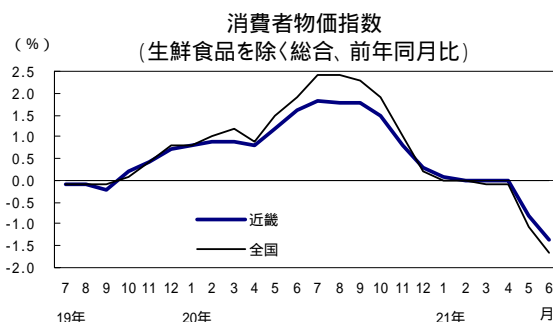
「求人数、採用者数共に2月を底に下げ止まっているが、まだ回復基調とまではいえない(民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	974	1,008	1,081	1,104	373
(前年比)	8.5	5.9	6.6	18.7	11.3
負債総額	2,461	3,216	3,968	2,356	735
(前年比)	59.1	28.6	59.4	21.6	13.6



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (5月)

- ・ 新型インフルエンザの影響で予約のキャンセルが増えており、当日の来客数も減っている (一般レストラン)

<先行き> (7月)

- ・ 近畿地方の梅雨明けが例年に比べて遅く、冷夏が予想されるため、夏物の売上が減少する (スーパー)

